第 24 回
日本血液学会北陸地方会
プログラム

当番会長　廣　瀬　優　子

期　日　　平成18年7月8日(土)午後2時より

会　場　　石川県立中央病院健康教育館小会議室
(金沢市鞍月東2丁目1番地　TEL 076-237-8211)

○一般演題は1題7分、質疑応答3分です。パソコン発表で行います。下記の2通りの方法から選んで下さい。

1　事務局のパソコン：事務局よりウィンドウズ(WindowsXP、PowerPoint2003)のパソコンを用意します。発表用データをCD-RまたはUSB接続対応フラッシュメモリで用意して下さい。事務局のパソコンへの取り込みは、13時～13時45分の間に行います。時間厳守でお願いします。

2　各施設のノートパソコンの持ち込み：プロジェクタ接続ケーブルは、HD(3WAY)15pinオスまでを事務局で用意します。これよりパソコン側のケーブルが必要なときは各施設で用意して下さい（特にマックは注意！）。データの動作確認を済ませ、発表の30分前までに用意して下さい。発表時のパソコン操作は各施設でお願いします（発表者はパソコンの操作ができません。不測の事態に備えパソコン操作に詳しい方にお願いします）。

7月6日木曜日までに1または2のいずれの方法で発表するかを事務局までお知らせ下さい（hokuriku@med3.m.kanazawa-u.ac.jp）。

発表データファイルのファイル名は、演題番号・所属・演者がわかるように簡潔に付けて下さい。（例：5金沢大血内奥村）

14：00　開　会　の　辞　　金沢医科大学血液免疫制御学　　廣　瀬　優　子

14：05　座　長　　福井大学医学部血液・腫瘍内科　　武　村　晴　行

1. 消化管穿孔を来すも保存的治療で軽快した再生不良性貧血の1例(66歳、男性)
独立行政法人国立病院機構
金沢医療センター内科　吉尾　伸之、周藤　英将、池ヶ谷諭史、能登　裕、木田　寛

・消化管穿孔という本来であれば手術が選択される病態において原疾患に免疫不全がある方の治療法について
・穿孔した部位は？

2. 禁煙後の血液学的変化
NTT西日本北陸健康管理センター　北尾　武、奥村久美子、野上　裕子

喫煙者では白血球数や赤血球数が増加している事が多い。禁煙により血液学的な改善が認められるかを確実に禁煙した人たちを対象として検討した。煙草は肺や血管系のみならず、血液にも影響を及ぼす。

3. シクロスポリンが奏功した CD4陽性 T-cell large granular lymphocyte leukemia の1例（55歳、男性）
石川県立中央病院内科　上田　幹夫、小谷　岳春、中村　喜久、山口　正木

糖尿病で通院中、徐々にリンパ球増多・顆粒球減少・肝機能障害が出現し、強い全身倦怠を訴えた。リンパ球はCD4陽性で顆粒を認めた。シクロスポリン内服により、検査成績と臨床症状の改善を得た。

14：35　座　長　　金沢大学大学院医学系研究科細胞移植学　高　見　昭　良

4. 小腸原発鼻型NK/T細胞リンパ腫 (63歳、女性)
金沢医科大学血液免疫制御学　坂井　知之、澤木　俊興、唐澤　博美、正木　康史、田中　真生、福島　俊洋、廣瀬　優子、梅原　久範
名古屋大学大学院医学系研究科
分子総合医学専攻臓器病態診断学　中村　栄男

発熱、腹痛、下血にて受診。腹部CTにてfree airを認め、腸管穿孔部の小腸病変よりEBV陽性・CD56陽性鼻型NK/T細胞リンパ腫と診断されたまれな症例を報告する。

5. 色素性乾皮症C型に合併し、難治性であったcytotoxic T cell lymphomaの1例(33歳、女性)

金沢医科大学血液免疫制御学　澤木　俊興、坂井　知之、正木　康史、田中　真生、福島　俊洋、廣瀬　優子、梅原　久範

名古屋大学大学院医学系研究科
分子総合医学専攻臓器病態診断学　中村　栄男

骨髄原発で、他の組織には病変部位は認めなかった。血球貪食症候群を合併したため汎血球減少で発症し、直後からDICと重症急性膵炎を合併した。CHOP＋ETP、ESHAP等行ったがその都度再燃し、難治性である。

6. 多発性肝腫瘤を呈したHIV-関連Diffuse Large B-cell Lymphoma (52歳、男性)

富山大学　第3内科　板谷　優子、濱島　丈、和田　暁法、河合　健吾、澤崎　拓郎、村上　純、加藤　勤、杉山　敏郎
同　輸血細胞治療部　江幡　和美
同　病理　石澤　伸、高野　康雄

発熱・右季肋部痛あり。多発性肝腫瘤あり、生検にてびまん性大細胞型B細胞リンパ腫 (CD30,EBER-1陽性)と診断。肝以外に病変は認めず。HIV-1陽性、CMVやクリプトコッカス髄膜炎を合併した。

7. CHOPで寛解が得られなかった、限局型びまん性大細胞型非ホジキンリンパ腫に対する放射線、化学療法同時併用の試み

市立砺波総合病院　血液内科　又野　禎也
同　放射線治療科　西嶋　博司
同　内科　佐藤　重彦、杉本　立甫

限局していながら標準化学療法で寛解が得られない症例に対して、化学療法と放射線治療の併用を行った。1例では追加化学療法を行い、長期寛解が得られたが、もう一例ではその後、他部位に再発を来たした。諸先生方のご意見をお願いします。

15：15　座　長　金沢医科大学血液免疫制御学　正　木　康　史

8. B細胞性リンパ腫に対する自家移植におけるリツキサン併用効果の検討

富山県立中央病院内科　尾崎　淳、彼谷　裕康、黒川　敏郎、吉田　脩

移植前処置にリツキサンを組み込むことによって、治療効果および合併症がどのように変化したかをhistorical controlと比較した。

9. リツキシマブ単剤の治療が奏効したVAD療法に抵抗性のCD20陽性骨髄腫の1例(81歳、女性)
黒部市民病院内科　　高松　秀行、山内　博正

患者は、81歳、女性。IgA-κ型骨髄腫、病期ⅢA。骨髄腫細胞はCD20陽性。VAD療法を5回施行したが効果なく、リツキシマブ単剤の治療8回で部分寛解となった。その後、6か月間無治療で安定している。

10. Hyper-CVADで完全寛解に到達し自己末梢血幹細胞移植術を施行した形質細胞白血病(68歳、男)
福井大学医学部血液・腫瘍内科　　山内　高弘、細野奈穂子、武村　晴行、岸　慎治、河合　泰一、浦崎　芳正、吉田　明、岩崎　博道、上田　孝典

68歳、男性の患者。2004年11月汎血球減少で発症し形質細胞白血病と診断された。腫瘍細胞がt(11;14)を有しており、同染色体異常を有するmanle cell lymphomaに準じて、Hyper-CVADを施行し完全寛解に到達した。2006年5月引き続いて自己末梢血幹細胞移植を施行した。施行後約5ヶ月寛解を維持していたが、2005年11月に再発し、化学療法抵抗性となった。本人の強い希望により化学療法を中止し、2006年4月亡くなられた。

11. 臍帯血移植後の拒絶に対し再度の臍帯血移植にて救命し得た治療抵抗性非ホジキンリンパ腫
金沢大学大学院医学系研究科細胞移植学　　山下　剛史、山崎　宏人、近藤　恭夫、高見　昭良、奥村　廣和、中尾　眞二
金沢大学医学部附属病院輸血部　　塩原信太郎
浅ノ川総合病院内科　　熊走　一郎

臍帯血は緊急移植のソースとして有用であった。本例の経験から、①臍帯血移植後の生着不全はどの時点で判定すべきか、②生着不全の原因は何か、③再移植時の前処置はどのようなレジメンが至適か、の3点を考察する。

15：55　総　　会

16：10　教　育　講　演
司会　金沢医科大学血液免疫制御学　廣　瀬　優　子

「EBV関連リンパ腫：最近の話題」
名古屋大学大学院医学系研究科臓器病態診断学　　中　村　栄　男

17：20　閉　会　の　辞
金沢医科大学血液免疫制御学　　廣　瀬　優　子